

テーマ：自然（春）

1歳児クラス 14名 30分

活動 畑を使ったどろんこ遊び

- ・全身を使って泥の感触を感じる。
- ・泥を使って遊んでみようとする。

準備したもの 畑・足ふきマット・足を洗うためのタライ
カップやスプーンなどの廃材・砂

○活動内容 新しくできた畑を見て、土に触れながら遊んでみる。水を混ぜて泥んこに変化する様子を見て全身を使いながら感触を楽しむ。

○保育者の問いかけやアプローチ 手遊びで「ちいさなにわ」、絵本「おおきなかぶ」をやってみたあとに保育者がカップに入れた畑の土と、園庭にある砂を用意し見比べる機会を作った。触り心地や匂いを子どもたちなりに感じたあと畑へ行った。畑では保育者が裸足になって遊ぶ姿を見せ、土をそのまま触ることが出来るスペースと水を混ぜて遊べるスペースを作り一緒に遊んでいった。

○子どもの様子 普段土や泥に触れる機会が少ないからか初めは触りたがらなかった。まず畑の場所が今まで行ったことのない場所のため不安を感じ行きたがらない姿が見られた。保育者が実際に裸足になっている姿を見て真似して裸足になったものの、いざ触れようとすると物怖じする姿があった。しばらくすると指で少しだけ触れる姿があり徐々にダイナミックになってきたためスプーンやカップも出し、見立て遊びができるようにしていった。実際に土に触ってみると、土の固さや匂い、水を足した時の土の感触の変化に気づき、「くさい」「ぬるぬるしている」など言葉にする様子が見られていた。手で触ったり歩いたりできない子も、座った状態で足の裏に感じる土の感触を徐々に楽しめるようになり一人ひとり違った楽しみ方をしていた。触れることを嫌がる児は初めから最後まで触れない児もいたが、最終的には全身泥まみれになるまで遊び込むことができた児もいた。



振り返り

スライムや絵の具などの感触遊びは好きな児も、泥んこは抵抗する姿が見られ子どもたちの新たな一面が見れた。畑に行くことが初めてだった為、不安を感じている子もいたと考えられるので、安心して遊べるよう継続して行えると良い。ただの土よりも水と混ぜて泥んことしてダイナミックに遊ぶ方が子どもたちもよく遊んでいて刺激的な環境の中で遊ぶことを楽しめていたのが良かった。畑で何かを継続的に育てるのは難しい発達段階だが1歳児クラスなりに畑に親しむ良い機会だったと感じる。